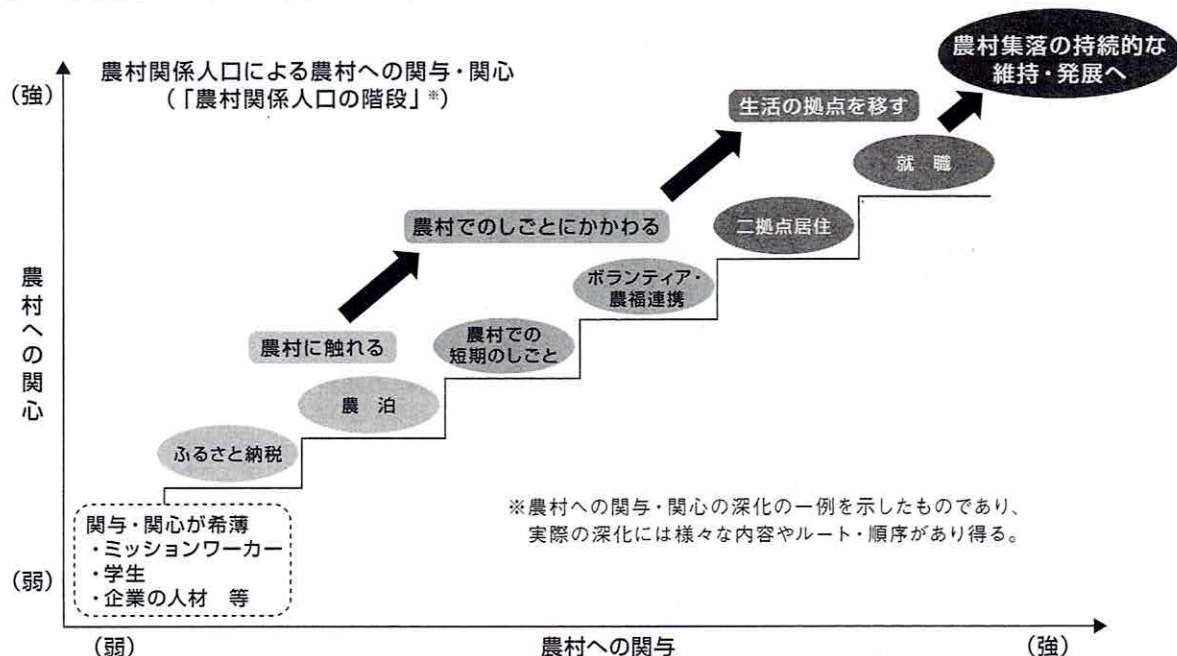


〈図2〉農村への関与・関心の深化のイメージ図



資料：農林水産省作成

020年」と比べてみても大変な数値であり、関係人口の持つ意義・パワーを感じさせられる。

農業白書の図表にもあるように〈図2〉、関係人口を増やしていくだけでなく、農村への関与・関心を深めていくことによって移住・定住して就農し担い手へとステップアップし、農村集落の持続的な維持・発展に寄与していくことが期待されている。

b 都市農業と関係人口

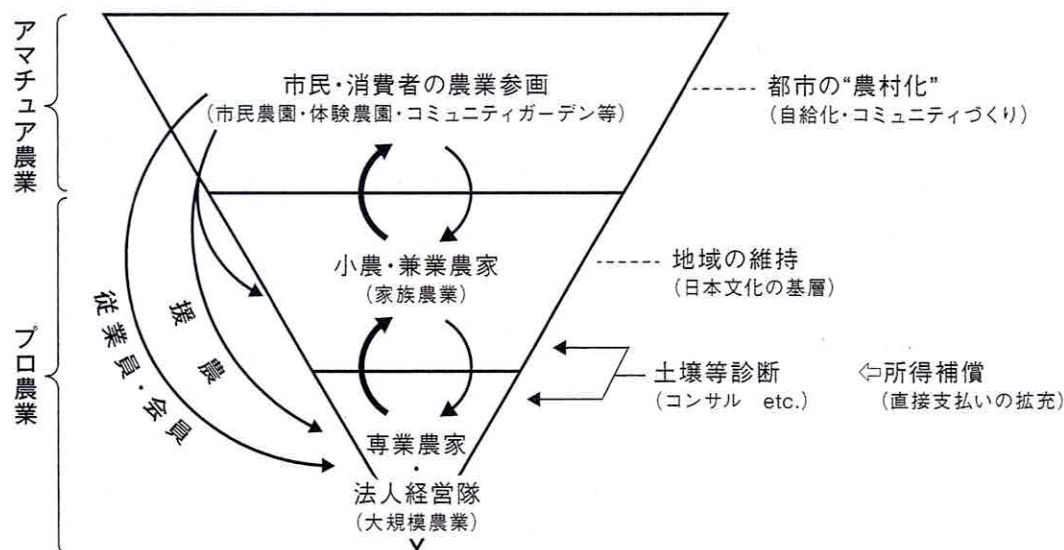
第6章「農村振興」の(4)「都市農業の推進」では、〈約65%の都市住民が都市農地を残していくべきと回答〉〈都市農地貸借法に基づき貸借された農地面積は拡大傾向〉の記述にとどまっている。都市農業振興基本法では、都市農業の持つ多様な機能として①新鮮な農産物の供給、②農業体験・学習、交流の場、③災害時の防災空間、④良好な景観の形成、⑤国土・環境の保全、⑥都市住民の農業への理解の醸成、があげられているが、②や⑥、さらには④や⑤も含めて都市農業はまさに都市住民の身近なところにある「関係人口づくりの場」ということができる。

都市農業は都市農家による「農産物生産の場」であるだけでなく、体験農園や市民農園等が広がるなど「消費者・市民が農業に参画する場」、さらに日本農

〈図3〉担い手の確保のカギを握る市民参画型農業の推進

担い手の確保のカギを握る市民参画型農業の推進 → 国民皆農

～担い手の三層構造を作りつつ、カチャーシ(かきまぜる)する!～



資料: 筆者作成

業全体を考えれば農村への移住等する人たちを生み出していく。関係人口づくりの場としての位置付けも期待されるが(図3)、こうした視点に欠ける都市農業政策はきわめて残念である。

また農業白書では都市農地を残していくべきと考える都市住民が多いことが強調されているが、都市農地、市街化区域内農地の減少は著しく、微減にとどまる生産緑地によって減少スピードが減速されているのが実情である。特定生産緑地制度によって生産緑地に指定して30年経過したものについて自治体への買取申出が可能となる期間を10年延ばすことができるようになり、生産緑地法を改正して30年目に当たる2022年の生産緑地売却の急増を抑制することはできた。しかしながら10年、さらに20年と経過するほどに担い手の高齢化はすすみ、相続に伴う売却が増加して、20年先、30年先には生産緑地のあらかたは消失することが必至である。この対策として都市農地貸借法に基づき貸借される農地面積の拡大推進が打ち出されてはいるものの、力不足は明白だ。関係人口を創出・拡大していくためにも、そして日本農業を維持していくためにも、都市農地を半

永久的に保全可能にしていくことは欠かせず、このための制度作りが急がれる。

3 提言…首都圏からの

流域自給圏づくりで

関係人口創出と農村振興

関係人口の予備軍は三大都市圏、特に首都圏、中でも東京に集中する。その東京は1400万人弱の人口を抱えるが、食料自給率は0%（カロリーベース）であり、都市農業があるとはいえ、面積は限られ、そのほとんどは野菜、これに果樹や花卉が加わるものの、主食である米の生産はほとんどない。東京の食料確保をどうするかは食料安全保障上の最大問題である。そして東京でも世田谷区や足立区をはじめとして地産地消に力を入れているところもあるが、肝心の主食については他県に依存せざるを得ないのが実態だ。

そこで提案を続けてきたのが地域自給圏づくりである。東京でお米の地産地消を図っていくことは困難であり、発想を転換して近隣の諸県とつながり、もう少し広域に地産地消の取り組みを拡げて、地域

自給圏として取り組んでいく。具体的には東京の場合、東京湾に注ぎ込む隅田川（荒川）、中川、江戸川等の大きな河川があり、これら川の上流とつながっての、地域自給圏という以上に流域自給圏づくりとして展開していく。下流と上流との行き来を増やし、下流の住民は米生産農家とつながって継続購入を確保するとともに、援農により田植えや稲刈りにも参加していく。消費者と生産者が提携して米等の持続的な購入を可能にしていくだけでなく、援農によって上流の生産をも支えていく、という構想である。まずは生産に関心を持つ消費者の育成・確保が必要であり、消費者も参画する都市農業の振興と都市農地の保全、あわせて各地での「農あるまちづくり講座」の展開等がこのための必要条件となる。

そして東京を中心にした首都圏でこれをモデル化して全国に広げ、全国を地域（流域）自給圏のネットワークで覆っていく。これによる関係人口づくりを起点にして食料安全保障を確立していくと同時に、都市と農村をかき混ぜ、農村の振興を可能にし、さらには都市の農村化、農的社会への転換までを目指すものである。